

CASE 03

九州がっ祭 学生実行委員会の場合

活動内容や団体について詳しく教えて!

「九州がっ祭」は、5年前に誕生したまだまだ若い祭です。熊本地震から半年が経った頃、九州の各地から「九州が一つに!」という声が集まりました。当時、「火の国YOSAKOIまつり」に参加していたよさこいチーム肥後真狗舞(ひごまぐま)のメンバーを中心に実行委員会を組織し、九州の各地で行われているお祭を熊本に招致。各県、各団体が競演する盛大なお祭を開催することになりました。学生実行委員会の役割は、当日開催に向けての参加チームの取りまとめや会場整理、当日のタイムスケジュール調整、ボランティアの取りまとめなどです。

2022年は3/26(土)、3/27(日)の2日間で開催予定です。熊本城や市街地周辺での参加チームの引率、観客の誘導、参加者への給水などのボランティアを約350名募集しています!



代表 山田真大さん



思わず一緒に踊りたくなるボランティア!九州がひとつになるその一体感と感動をぜひ体験してほしいです!

活動における「課題」は?

資金面をもっと強化したいと構想しています。現在の運営資金は企業等からの協賛、クラウドファンディング、寄附金が中心です。また、参加する各チームからも参加費を頂いています。今後はより安定した運営を続けるためにも、助成金等を活用し、告知用の印刷物の制作費を充実させたいですね。余裕ができれば、ボランティアに参加したみなさんのお弁当や飲み物代にも!現在の資金調達は社会人スタッフのみなさんにお任せしている状態なので、私達学生でも自分達で確保できる財源を見つけていきたいです!



過去には、企業等に協賛のお願いや御礼の挨拶で伺うこともありましたが、現在は新型コロナウイルス感染症の影響で企業訪問も困難な状況です。

あいぽーとに相談だ!



市民公益活動支援担当
白石 直子

事業の目的を再確認!

事業の規模が大きくなると、時間や手間の面でも、資金の面でも多くの方の協力が必要となってきます。そんな時こそ、「なんのために実施するのか」という事業の目的を仲間と共有することが大切です。目的が定まっていれば、ボランティアの募集方法や資金の集め方も幅が広がっていくはずですよ。

広く知ってもらう手段を考える

資金を集める手段の一つとして「寄附」があります。寄附をした人の中には「知っていれば、もっと早くから応援したのに!」とおっしゃる方もたくさんいます。今まで知らなかった人に知ってもらう方法を視野に入れると、寄附集めがもっとスムーズにいくかもしれません。

CASE 02

熊本大学学生災害復旧支援団体「熊助組」の場合

活動内容や団体について詳しく教えて!

2007年に熊本大学工学部社会環境工学科の学生によって設立された工学部公認の災害ボランティアサークルです。2020年の人吉豪雨災害では、現地での土砂かきや土砂の運搬のお手伝いをしました。被災から1年経った2021年夏からは、被災者の方の話を聴く傾聴活動や写真洗浄ボランティアを継続的に行っていましたが、コロナ禍の影響で活動は縮小しています。東北大学や香川大学のボランティアグループとは、熊本地震の際に合同で活動した縁があり、コロナ禍での活動について意見交換を行ったりしています。

熊本大学工学部の公認サークルです。
メンバー募集中!詳細や活動報告は各SNSをご覧ください!



Instagram



Facebook



代表 奥田耕大さん/副代表 松浦拓斗さん



いろんなものが混じった土砂、水を含んだ量の重さ…。メディアを通してしか知ることのなかった被災地の現実を、五感を通して感じる事ができました。

活動における「課題」は?

課題となっているのは「後継者不足」です。現在私達は修士1年生ですが、活動を引き継いでいってくれる後輩がいないことが大きな問題となっています。学内で部員募集のための発信をしても、学生達からの反応がありません。特に現在の2年生、1年生はコロナ禍の中で大学生活をスタートしたため、学内で充分な交流もできず、人間関係を築けていない人が大多数です。他のサークルも同様ですが、メンバー募集のための情報拡散が非常に困難な状況です。交流会などのイベントを通して、学外に向けた情報発信も行いたいと考えていますが、自分達でイベントを開催するだけのノウハウがないのも弱点ですね。なんとか現状を打破して、コロナ禍でも活動できる「熊助組」を作っていきたいと思っています。



現在の登録部員は40名ですが、実際に活動に参加している部員は10名。コロナ禍も相まって参加率の低下が著しく、今後の活動に危機感が募ります。

あいぽーとに相談だ!



市民公益活動支援担当
清水 栄敏

団体の歴史を残しては?

学生主体の組織となると、代表者や中心メンバーの卒業により、後継者の育成や引継ぎが課題となっている団体も多いですね。また、活動自体は引き継がれていても、団体の歴史やそもそもの趣旨が引き継がれていないというケースもあります。どんな団体にも、歴史があって現在があります。団体設立の想いやその軌跡をまとめた冊子を作成してみるのはいかがでしょうか?パンフレット制作の資金について、助成金等を活用するのもお勧めです!

培った知識を市民のみなさんに

災害支援は危険な場所での活動となるため、災害についての勉強会や講習会で日頃から学んでおくことが大事です。この「学ぶ」という点で、あいぽーとでもお手伝いできるかもしれません。みなさんが培ったノウハウを利用し、市民のみなさんに災害について学ぶ機会を提供できるようなイベントができればいいですね!